



かながわワイド

浜崎原塚倉沢
川模須平鎌藤
相模横小田

スポーツ振興条例可決

県内で初、来年4月施行

横須賀市議 横須賀市議会は12日の12月定例会本会議で「市スポーツ振興条例」案を議員提案し、全会一致で可決した。スポーツを地域振興に役立てることを目指す内容で、こうした条例は県内市町村で初めてという。来年4月1日に施行する。

市内にはプロ野球・横浜DeNAベイスターズとサッカーJ1の横浜F・マリ



議員提案の「横須賀市スポーツ振興条例案」を加藤真道議長(左から2人目)に提出するスポーツ振興検討協議会の山本委員長(同3人目)ら

ノスの練習場があるほか、BMXやパルクールなどデ・バンススポーツ、ウィンドサーフィンの大会などが開かれている。スポーツ振興検討協議会委員長の山本賢寿市議は「豊かな自然環境で多様なスポーツが行われている横須賀の強みを生かす内容とした。障害者スポーツのハード・ソフト面の整備にもつなげていきたい」と話した。

(最上 翔)

トマホーク配備巡り市議会 撤回求める請願不採択

横須賀市議 ミサイル「トマホーク」の海上自衛隊横須賀基地(横須賀市)などを母港とするイージス艦への配備を巡り、横須賀市議会は12日の12月定例会本会議で、配備撤回を求める国への意見書提出を要望する請願を賛成少数で不採択とした。

討論では3人が賛成討論に立ち、大村洋子氏(共産党)は「専守防衛から逸脱する先制攻撃のための武器。集団的自衛権の行使があれば他国からの武力攻撃で被害が及ぶ可能性があらう」などと述べた。採決では賛成は6人(共産3、無党派3)だった。

請願は市内の市民団体らで構成する「トマホークアクション2025」が市議会に提出。5月から市内駅頭などで署名を募り、直筆署名は約1万8千筆(横須賀市民は約4千筆)、オンライン署名も合わせて計約3万筆が集まった。不採択を受け、新倉裕史

トマホーク配備の撤回を求める請願が不採択となり、静かに議場を見つめる「トマホークアクション2025」のメンバーら
=12日、横須賀市役所



町文化財の樹 除去や石仏修復

葉山 葉山町指定文化財の「木古庭滝不動尊常緑樹林及び境内樹林」(同町木古庭)で5

小中学生に地元企業について知ってもらうための「デジタル副教材」作りが藤沢市から広がっている。社会を下支える企業に光を当てた「地域のお仕事ガイドブックDX」で、湘南エリアを中心に約70社が参加。希望する小中学校で企業担当者が出張授業を行い、実際に仕事ぶりを伝える。関係者は「地元企業の知られていない魅力や働く格好良さを伝えるきっかけになれば」と期待している。

(牧野 昌智)

藤沢 小中学生のデジタル副教材

制作しているのは藤沢市の書店経営をルーツに持つ静雲堂(東京都港区)。湘南ベルマーレ(平塚市中堂)と事務局を運営し2023年から順次、「藤沢市・鎌倉市版」「平塚市版」「伊勢原市版」などのデジタル副教材を手がけている。

藤沢市・鎌倉市版では製造やサービス、金融、医療介護などの大手・中小企業23社を紹介。各企業の業務の特徴を分かりやすく伝えるイラストや動画などが多く使われており、「子どもたちが興味や関心を抱く入り口(中込知野事務局長)となるよう編集されている。完成後に教育委員会に寄贈され、児童・生徒らが学校で配布されたタブレット端末で自由に内容を見ら

地元企業の魅力 発見



①企業の出張授業でハードディスクの構造などについて説明を受ける生徒ら②地元企業の仕事内容ややりがいなどについて話を聞く生徒ら③9日、藤沢市立湘南台中学校

湘南で70社出張授業も

学校では主に総合学習の時間で活用されており、今月9日には藤沢市立湘南台中学校で地元企業11社の担当者が出張授業を行った。2年生約190人はデジタル副教材を予習した上で、事前に「仕事を選んだ理由」「やりがい」「求められる人材」など質問項目を準備。15グループに分かれて企業からの「授業」を受けた。企業担

当者は自社を紹介し、生徒の質疑に応じた。「自社に社会に役立つ独自技術があることを知り、心が躍った」と就職を決めた動機などを伝えていた。生徒からは「好きなことを仕事にする大切さや、地域と職業の関わりについて学べた」といった声が上がっていた。

出張授業の調整は事務局が無償で行っている。中込事務局長は「企業にとってファンづくりや若手社員の育成に役立つと思う。賛同企業をさらに増やし教材を充実させたい」と話している。